

目次

第 1 章	はじめに	3
第 2 章	環境構築と初期設定	5
2.1	L ^A T _E X を使うのに必要なもの	5

第 1 章

はじめに

お手に取って頂きありがとうございます。

みなさんは $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}^{*1}$ というソフトウェアをご存知でしょうか？ $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ とは $\text{T}_{\text{E}}\text{X}^{*2}$ を元に開発された文書作成ソフトウェアで、編集している画面が出力として得られる Microsoft Word などのソフトウェアとは対照的に $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ の文書はプログラミング言語のような形で命令と文章を記述し、タイプセットと呼ばれるコンパイルを行うことで PDF 形式での出力を得られる、という形の文書作成システムです。

このような形式は一見面倒に思えますが、自動で段落や目次の生成を行えたり、強力な図形描画機能を備えている点から、レポートはもちろん論文の執筆で威力を発揮します。また美しい文書を作成できることでも評価が高く、 $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ を用いた書籍も多数出版されています。もちろん本書も $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ で作成されています。

本書では、 $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ の基本的機能から、レポート執筆に便利なグラフの生成や回路図の生成が可能になる拡張機能の使用法の解説、またソースファイルの差分管理など運用面の内容も交えて解説します。

本書が読者のレポート執筆の一助となれば幸いです。

*1 ラテック/ラテフ、英語圏ではレイテックとも読まれる

*2 テック/テフと読む、テックスは誤り

第 2 章

環境構築と初期設定

L^AT_EX を使うにあたり最も大きな障壁とされるのが環境構築^{*1}とされています。確かに Microsoft word などと比べれば導入は少々煩雑ではありますが、多くの方々の尽力により今ではとても簡単になっているので、身構えることはありません。

2.1 L^AT_EX を使うのに必要なもの

まず、L^AT_EX のソフトそのものが必要になりますが、L^AT_EX は単体のソフトウェアではなく、多くの関連ソフトの集合体です。それらを一つ一つ導入していくのは不可能に等しいので、L^AT_EX では関連するソフトをひとまとまりにした状態で配布するディストリビューションという形態がとられています。現在配布されているディストリビューションにも数種類あるのですが、現在最もポピュラーな T_EXLive というディストリビューションを今回使用します。

また L^AT_EX は、マークアップ言語と呼ばれるプログラミング言語のような形で文章の構造を指定します。そのため L^AT_EX を使うためには L^AT_EX 本体ソフトウェア以外にもマークアップ言語を記述するためのテキストエディタが必要になります。T_EXLive にも一応 T_EXWorks というテキストエディタが同梱されているのですが、お世辞にもモダンとは言えません。ですので、今現在 L^AT_EX に限らず多くのプログラミング言語の開発環境に用いられている Visual Studio Code というエディタを使用します。

今回インストールするソフトウェアは以下の 2 つとなります。

L^AT_EX ディストリビューション T_EXLive

テキストエディタ Visual Studio Code

これらのソフトウェアの導入手順を以下にて解説します。

^{*1} そのソフトを使える環境を整えること